連載

次代の農業を担う

～栃木県農業大学校生のチャレンジ～ ⑲

魅力あるいちご経営を目指して

私の家は、小山市でいちごを栽培している専業農家です。パイプハウス9棟、高設1棟で品種はとちおとめ、とちあいかを栽培しています。父、母のほかに農繁期には知り合いの農家や親戚に声をかけ、お互いに助け合って作業をしています。私は幼い頃から作業を手伝いながら、父と母が一生懸命農作業に取り組む姿を見て育ちました。歳を重ねて両親の姿を見ていくうちに、農業への関心が強くなりました。そのために農業に関するより専門的な知識や栽培技術を学ぶために、栃木県農業大学校に入学しました。

今まで私は、簡単な作業しか取り組んだことがなかったので、学校の座学や実習を通して、作物の環境保全や苗の管理、夜冷処理、定植などイチゴ栽培必要な知識や技術が多くあることを知り、農業に取り組むことの大変さ、そして、やりがいを実感しました。

今年の8月には先進的経営体実習として先進農家への派遣研修を体験しました。学校での実習では得ることの出来ない経験や、経営の取り組み、考え方を学ぶことが出来ました。研修先で主に行った内容は、イチゴの定植作業やその準備作業でした。定植作業は不慣れだったこともあり、最初の頃は慣れるのに大変苦労しましたが、指導者の方々の丁寧な指導によって効率良く作業に取り組むことが出来ました。加えて定植をするのに適した時期を調べる花芽検鏡も強く印象に残りました。栽培技術だけでなく、人とのコミュニケーションの大切さを改めて学ぶ良い機会にもなりました。分からないことは教え合いながら助けあっていくことで、お互いが助け合って農業経営が成り立っていくということを感じました。

最近の農業では、農家の高齢化、後継者不足が大きな問題にもなっています。そのためにも出来るだけ経営者の負担を少なくして、サポートし合える環境づくりを心掛けていくことが解決への糸口になると考えています。例えば、定植作業などは腰にかなりの負担が掛かってしまうので、台車を効率的に利用して作業をし、辛い時は仲間と声を掛け合って助け合えるような、魅力のある農業経営を私は目指していきたいです。

（園芸経営学科　野菜専攻　大山夏奈）

和牛繁殖複合経営に夢を乗せて

私の家では、父と姉の2人で水稲と和牛繁殖の複合経営をしています。昔は、父と祖父で経営をしており、私も幼い頃から牛舎に行き、父の仕事の手伝いをしたり、田植えに行ったりと、遊びに行く気分で手伝いをしていました。私が小学校2年生のころ、祖父が亡くなってしまい、父が1人で家の農業を経営していくことになってしまいました。その時に、少しでも父の仕事を助けられたらいいなと思い、家の仕事を毎日手伝うようになり、その時から今まで、ずっと家の仕事をするようになりました。

中学生になり、この農業という職業を自分の仕事にしたいと思うようになったのが、今の農業大学校に進学したきっかけでもあります。家での私の担当は、人工哺乳で子牛にミルクをあげることでしたが、中学生からはその仕事に加え、親牛の飼料給与や稲の種まき・田植えをはじめ他の仕事も手伝うようになり、農業に触れる機会がさらに増えていきました。自分の出来ることが増えていく度に達成感があり、動物や自然が好きだからさらに楽しく作業を進めることができました。これを仕事としてできるなんてとてもうれしいと思い、私は農業がどんどん好きになっていきました。

また、農業は人が生きていく上で必要な食料を生産する仕事だから、関わっていてとても社会に貢献できていると実感でき、いい牛にするためにはどうしたらよいのか、父や姉からたくさんのことを教えてもらい、この農業をもっとたくさんの人に知ってもらえるような農業経営をしていきたいです。家が農業をしていて私はとても嬉しく誇りに思っています。

（畜産経営学科　秋元涼花）

農業大学校ホームページ
http://www.pref.tochigi.lg.jp/g63/index.html